

## 平成27年度土木学会四国支部 若手土木技術者の交流サロン報告

テーマ：子育て女性技術者が辞めずにすむ働き方の実践法  
～イクメン・イクボスも集まれ！～

日程：2015年5月23日（土）13:10-14:50

会場：香川大学工学部6号館2階6202教室

参加人数：62名（女性：46名、男性：16名（60歳前後：2名、50代：4～5名、40代：3～4名、20代：4～5名））（ただし、途中退出含む）

### 講演内容：

1. 「子育て女性技術者が辞めずにすむ働き方の実践法」  
（高松市役所 國田真紀代さん）  
市役所の子育て休暇制度やご自身のキャリア形成、仕事と家庭との両立に必要なこと、考え方をご講演いただいた。
2. 「子育て女性技術者の働き方実践法」  
（香川県庁 村川景子さん）  
現在の仕事内容、女性が土木で働いて苦勞する点、出産してよかったこと、仕事と家庭の両立とは具体的にどのようなことかをご講演いただいた。
3. 「子育て中の若手女性技術者」  
（(株)四電技術コンサルタント 甲斐佳子さん）  
妊娠から出産までの仕事の調整・割り振り、出産から育児休暇中の職場復帰の準備、復職後の仕事の調整（会社・家族）、仕事と家庭の両立のポイントをご講演いただいた。
4. 「子育て女性技術者が辞めずにすむ働き方実践法」  
（復建調査設計(株) 岩井綾さん）  
女性が仕事を続けるために必要なこと、独身時代から現在（子育て中）までの経緯、仕事との家庭との両立のために必要な協力体制をご講演いただいた。
5. 「私の育休体験」  
（香川高等専門学校 大賀祐介さん）  
育休取得体験、取得してよかったこと、取得にあたり苦勞したこと、男性がスムーズに育児休業を取得するための考え方や準備等をご講演いただいた。

### 出された意見：

子育てを通じてどのような仕事への変化やメリットがあったか、女性土木技術者が出産後も働くための土木系職場への要望とは、などの来場者との意見交換が行われた。

### 総括：

会場は来場者で満席、男性の参加者も多数確認でき、土木業界における本テーマの関心の高さがうかがえた。

また、女性技術者、イクメン・イクボスとともに、四国圏内からの土木系女子学生の参加があった。高知高専、香川高専、徳島大学、愛媛大学、高知工科大学、香川大学の女子学生達が研究内容や各自の活動を発信して、女性技術者と次世代を担う工学女子達との交流も行われた。

参加者の感想：

- ・ 同じ女性としての立場から話を聞いたので、共感しやすいところがたくさんあって、身のためになることがとても多かった。女性が社会進出して、日本でも、もう数十年が経過していると思うが、まだまだ「女性だからいい。」といったような偏見が残っているのには正直驚いた。
- ・ 話にもあったが、自分がどうしたいのかしっかり考えて、自分なりの軸を持つことが大事だと思った。どういう仕事に就きたいかだけでなく、将来の生き方も含めて考えていかなければならない。
- ・ 男性の理解が問題とよく耳にするので、職場の女性同士で助け合うという考え方は新鮮で大切だと思った。
- ・ これまでは、子供ができたら仕事に集中することができず、育児中心でキャリアアップは不可能、というイメージがあったので、自分がどうしたいか、どうなりたいか、仕事を続け、将来ビジョンを持つことが最も大切なことであるという考え方は大変驚きであった。
- ・ 私たちの先輩方からとても貴重な話を受けた。共通していたことは、自分の周りの人の理解ということだった。家族、そして、職場の理解だ。しかし、それを得るには、出産に至るまでに自分が仕事で培ってきた信頼が必要だということがわかった。
- ・ まだまだ、土木の女性技術者に対する理解は少なく、たくさんの苦労をされたことも聞くことができとても良い経験であった。
- ・ 日頃から急な事態に対処できるように、工夫して仕事をされているという行動は、今からでも見習うことができると感じた。
- ・ 私が印象に残っているのは「仕事をしながらも、出産してよかったと思うこと」についてであった。それは、時間の有効利用、朝型生活での体調改善、現場での視点の変化である。仕事を続けながらも、出産することのメリットや感じる喜びなどの話を聞くことができ、よかった。
- ・ 女性の技術者だから苦労することもあったが、現在では、女性であることのメリットが多いという話も聞いた。
- ・ 今回のように、イクメンの方が話す機会がもっと多く設けられれば、多くの方が子育てについて知ることができると感じた。
- ・ 今回の講義では、職業のことだけでなく、子育てのこと、周りの人との関係のことなど学ぶことがたくさんあった。ありがたい機会だったと思う。
- ・ 女性の育休だけでなく、男性の育休も興味深かった。男性ならではの視点や考え方はとても勉強になったし、育休の制度に関する話も聞いてよかった。
- ・ 今回、お話を聞いた方々は、どなたも充実した毎日を送っているように思えた。男女関係なく、働く社会の実現にはまだ改善点があるものの、実現に向けて、着実に進んでいるように思えた。
- ・ 家庭内のことをうまくまわすためにも、職場での育児休暇が認められ、働きやすい環境を提供すべきであると思った。
- ・ 四国の各大学・高専の先輩方から、今度の取組に対する意気込みを語ってもらったが、私たちにとって、身近な存在の方々のお話を聞くことで、私自身もこれから頑張っていこうという良い刺激をもらった。
- ・ 土木関係で女性が少ないからといって尻込みするのではなく、女性の方々のお話にもあったように、女性であることを武器にして、将来、仕事と向き合うようにしたいと思った。
- ・ 育児休暇をとる際に、技術職は代わりの人を探すことが難しいため、自分が今

している仕事はいつでも誰かに代わってもらえるように効率よく、分かりやすいように作業を行うことが重要であると知った。

- とにかく、妊娠中でも働くことができるうちは働き、助けが必要なときはとにかく人を頼ることで、仕事を円滑に行うことができるのだと思う。
- 働く女性をサポートするためには周囲の人の協力がとても重要であることが、今回の講演で知ることができた。
- 私もいずれ技術職で働くことになると思うが、女性だからと言われたいような技術者になりたいと思った。そして、社会への認知をもっと拡大していくべきだと思う。
- 女性にしか分からない悩みなどがあって、すごくためになった。
- 実際に、産休や育休をとって、仕事に復帰なさっている女性の技術者の方が、実体験を元に講義してくださり、自分の将来と関連づけながら聴くことができ、とても参考になった。
- 男性の育休など、まだ知られていないからこそ、自分が細かく勉強し、説明できるようにして戦えるまで知識を取り入れ、育休をとるといのはすごいと思った。
- 私も将来、仕事と家庭を効率よくこなせる女性になりたいと思った。
- 最後にあった、先輩方や他県から来られた学生の方々のスピーチを聞いて、私たち以上に、活動的に動いている同世代の女性がいるんだなと思った。もう3年生になるので、自分も今日スピーチされた方々のように、研究をしたり、活発に、活動するべきだなと、再認識させられた。
- 今日の講義のように貴重な機会を設けてくださって、学ばせていただき、ありがとうございました。

サロンの様子：

